

2008 年度

科目名  文化財特殊講義Ⅳ（保存・分析）A	対象学科・学年 文学部文財3回生	担当者  三辻 利一
授業テーマ 考古科学		
授業の概要と目標 考古学は地下から出土した遺物を通して、過去を再現する学問分野である。本来、考古学は遺物の型式学として発展してきた。しかし、考古遺物は「もの」である。他方、自然科学は自然界に広く存在する「もの」を研究してきた。自然科学が開発した多くの方法は考古遺物の研究にも役立つ。新しい考古学では形式論のみならず、自然科学の方法を取り入れて、過去を再現することになる。そのためには、どうしても、自然科学の発展の歴史を学ぶことは必要である。本講義では宇宙観と物質観の歴史を講義するとともに、自然科学の考え方、その方法を理解する。		
評価方法 レポートと出席日数で評価する。		
テキスト とくにない。	著者	出版社
参考書 講義の都度、紹介する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宇宙観の変遷（1）（天動説）</li> <li>2. 宇宙観の変遷（2）（地動説）</li> <li>3. 地球観の変遷</li> <li>4. 物質観の変遷（1） 元素と原子</li> <li>5. 物質観の変遷（2） ドルトンの原子論</li> <li>6. 物質観の変遷（3） 力、熱、エネルギー</li> <li>7. 物質観の変遷（4） ボーアの原子論</li> <li>8. 元素分析法の歴史</li> <li>9. 原子核の発見</li> <li>10. 同位体元素の発見と、その考古学への応用</li> <li>11. 考古学と物理化学</li> <li>12. 考古遺物の形式論と材質分析</li> <li>13. 新しい考古学（1）（X線の応用）</li> <li>14. 新しい考古学（2）（生物学の応用）</li> </ol>		